

筆 後藤新平賞〈最優秀賞〉

フィンランドの小さな町で、市長から学んだこと

[テーマ③私の理想のリーダー像]

滋賀県立膳所高等学校 3年

林 樟太朗

氷点下の霧。現地の人々も「久しぶりに霧がかかったな」と鼻をすするフィンランド西部の田舎町。私はというと、今日初めて顔を合わせた、厚手のダウンに身を包む男性と2人きり。寒さで凍った湖のほどりで、違ったなまりの英語が2つ、交差した。議論を終えない私たちに冬の北欧の日没を知らせるかのごとく、日は湖面にかすかに反射するのみだった。

昨年の冬、政府の奨学金を利用して北欧3カ国へ1人で渡航し、独自に約20のさまざまな機関を訪問した。「幸福な国」「教育先進国」など、まるで桃源郷かのように語られる国々を自分の目で確かめたいと思ったからだ。そして私がここ、フィンランドの小さな田舎町ビンペリ(Vimpeli)を訪れたのは、この自治体の市長サムに会うためだ。サムは市長への就任当初、「政治家が最も若い国」と称されるフィンランドの国内最年少市長であった。地方の教育や日本の政治へ課題を感じる私の問題意識と親和性が高いように思い、彼と会うことを切望していた。私を北欧へ突き動かした日本社会への違和感を大量につづり、私は日本から事前にサムへ訪問アポを取っていた。彼は異国からの不審な訪問依頼を快諾してくれていたのだ。

夜行列車で「かなり遠い最寄り駅」へ向かい、胸を高鳴らせてビンペリ市に着いた。サムはその日初対面の私を、ヨーロッパ最大のクレーター湖「ラッパ湖」の環境保全を巡る首長会議から会食、美術館や図書館の視察まで、自身の公務に躊躇なく同行させてくれた。

その道中、私は市民が皆こぞって彼に声を掛ける姿に瞠目した。「サム！いま俺の仕事がさ！」「今日は寒いね！サム」「相談があるんだ」本当に自治体のトップなのか？と私に感じさせるほど、サムは市民と距離が近く、信頼された存在だった。冗談を飛ばす彼を横目に、本当のリーダーとは？という漠然とした問い合わせが浮かんで、私の頭から離れなかった。

サムは市長に就任する前、毎日のようにさまざまな市民と夕食を共にして「市民の声に基づく政策」を考え続けたそうだ。彼の就任から数年間、町の経済は黒字に好転し、人口も右肩上がり。町の野球チームが全国優勝を果たし、ビンペリの大自然はユネスコから認定を受けた。対話に基づくサムの満身創痍の政策の積み重ねを知る私には、それらがただの偶然には思えなかった。少なくとも、良い意味で「リーダーらしくない」存在の彼が情熱を持ち市民のために働くことで、町に貢献していることは明らかだった。

大人数に大きな力で指導するカリスマ的存在とは対照的なサムの背中から、私は全ての人と対等な関係を築き、対話を重ねるよう努める「リーダーらしくない」存在こそが、集団を最善に導くのではないかと思った。

これまでに私は、生徒会長として中高で「対話的な校則見直し」に取り組み、約100人が所属するボート部の主将としては、練習方法を新してチームを初の全国大会決勝に導いた経験がある。できるだけ全ての人と対話し、納得による集団の意思決定に尽力したいつかの自分と、少し通じるものがあるような気がした。サムは「リーダーだからこそ、みんなと同じ目線で、みんなと同じように暮らさないと」と私に語った。コミュニティーの大小を問わず、リーダーに内在すべき本質を言い表したこの言葉が、私の胸に深く刺さった。

リーダーとしての自覚は時に傲慢^{ごうまん}に変わり得る。強いリーダーシップは集団を前に進める強い力にもなるし、他者を置き去りにする危険性もはらむ。だからこそリーダーは、誰よりもこのことに自覚的で、他者への理解と共感を大切に思う必要がある。

サムに地元への思いを語らせれば、北欧の日など容易に暮れる。リーダーには誰よりも熱い情熱が必要で、その一貫性のある情熱に裏付けされた小さな日々の選択がコミュニティーを変える現実を、私は幾つも知っている。

大国の大統領も、小さな町の市長も、生徒会長や部活の主将も、周囲に選ばれ、その任せられた責任に応答する真摯^{しんし}な姿勢には、共通するものがあるようだ。

私がフィンランドの小さな町で出会ったのは華やかなカリスマではなく、日々の市民との対話と、情熱が生む一貫性のある選択から強い信頼を得るリーダーの姿だった。私がリーダーに求めるのは、そして自身がリーダーとなる際に努めるのは、大人数を圧倒する強さを持つことではなく、誰とでも等しく向き合い続けられる情熱と心の強さを持つことだ。

これが、私にとっての理想のリーダー像だ。まずは生徒会や部活など、身近な場所でその姿勢を体現しつつ、いつかその舞台が大きくなってしまっても、同じ姿勢を貫いていたい。

「場所は違うが、共に素晴らしい社会をつくろう。君にはその情熱がある。情熱があれば、それをリーダーの勇気に変えるのは簡単さ」

私は、サムの言葉を忘れない。

